

注意機能の評価結果と 生活場面をつなぐ臨床メモ

独自の補助資料です。CAT-Rの公式用紙・標準化された評価尺度ではありません。
検査問題・採点欄・独自の基準値は含みません。

対象ID： 記録日： / / 記録者：

01 本人が困っている場面・希望

活動・時間帯・何が起きるかを具体的に。

02 評価時の条件

覚醒 / 疲労 / 痛み / 視聴覚 / 理解 / 反応方法 / 環境 / 変更・中断

03 結果の要点と、観察した事実

結果は公式の記録を参照。「見た事実」と「考えた理由」を分ける。

04 生活で確かめる仮説・変更する条件

一度に変える条件を一つ決める。安全上必要な支援は維持する。

05 変化と、次に確認すること

何を数えるか / 本人の感想 / 再確認する日時・条件

この用紙だけで注意障害の診断、重症度、運転・復職の可否を判定しません。
検査の実施と解釈は現行マニュアルに従い、生活機能の評価と合わせて検討します。

注意機能の評価結果と 生活場面をつなぐ臨床メモ

独自の補助資料です。CAT-Rの公式用紙・標準化された評価尺度ではありません。
検査問題・採点欄・独自の基準値は含みません。

対象ID：例A 記録日：20XX / XX / XX 記録者：担当OT

01 本人が困っている場面・希望

活動・時間帯・何が起きるかを具体的に。
夕食中、テレビを見ると食事の手が止まる。
本人の希望：声をかけられ続けず、自分のペースで食べたい。

02 評価時の条件

覚醒 / 疲労 / 痛み / 視聴覚 / 理解 / 反応方法 / 環境 / 変更・中断
午後に実施。眼鏡あり。本人は「少し疲れた」と話す。
静かな個室。言語理解・視聴覚・反応方法は別途確認。

03 結果の要点と、観察した事実

結果は公式の記録を参照。「見た事実」と「考えた理由」を分ける。
検査の正式な結果は診療記録を参照。
課題の後半に、視線は用紙へ向いたまま手が止まる場面があった。

04 生活で確かめる仮説・変更する条件

一度に変える条件を一つ決める。安全上必要な支援は維持する。
仮説：テレビの刺激が食事の継続に影響している可能性。
まずテレビだけを消す。時間帯・食事内容・声かけはできるだけそろえる。

05 変化と、次に確認すること

何を数えるか / 本人の感想 / 再確認する日時・条件
同じ観察時間で、手が止まる回数と声かけ回数を記録する。
本人の食べやすさも聞く。別の日にも同条件で確かめる。
変化があっても、注意機能の回復と直結させない。

この用紙だけで注意障害の診断、重症度、運転・復職の可否を判定しません。
検査の実施と解釈は現行マニュアルに従い、生活機能の評価と合わせて検討します。